

加賀市の保育のみらい 2024-2025 ～加賀の自然とこどもたち～

令和6年度の保育実践の実りを広く市民に届けること、園が今まで以上に地域に開いていくきっかけになることを目的に、シンポジウムを開催しました。

実践報告の中では、1歳児から5歳児までの事例が紹介され、加賀市ならではの自然や気候、歴史や文化を活かし、保育園だけではなく、地域全体を学びのフィールドとした取り組みが報告されました。

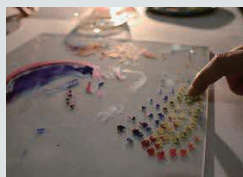
「これまでも、すぐそばに加賀市の自然は存在していましたが、子どもの発見や疑問、そこから紡がれる言葉と一緒に向き合うことで、大人のわたしたちが再びそこに会い直した感覚がある」という発表者の言葉からは、子どもの視点で地域を捉え直すからこそ、新たに生まれる魅力や文化があることに気付く場となりました。

そんな子どもの発見や問いに対して真摯に向き合い続ける大切さが語られた実践報告となりました。



保育者がセットアップした 体験型のアトリエ空間

会場内では、リーディング園が中心となり、日々の子どもたちとの探究活動のプロセスを体験できる「アトリエ」を再現しました。ここでは、植物や土粘土などの身近な素材からマイクロスコープなどのデジタルツールを活用し、日々、保育園での子どもたちの学びの環境を体験できる場となりました。



掲載ご協力先

山代温泉通り商店街振興組合
山代温泉 総湯
山中座
イオン加賀の里
アピオシティ加賀
加賀温泉駅
中央図書館

子どもが描く作品には、言語だけではなく、子どもの素晴らしさや発想のおもしろさが詰まっています。それを多くの人に届けたいと願い、子どもたちの作品やポスターを市内の商業施設や観光施設などに展示しました。

展示会場では、ポスターを1つ1つ、目を細めながら眺め、子どもたちの感情の動きに心を寄せられた市民とも出会うことができました。皆さまは、市内でいくつかの「こえ」に出会い、どのように感じましたか？

こどものこえ展 in かが 「学びの未来」を、0歳から。



保育ビジョン - 1年目の歩みについて -

令和6年4月に公表した保育ビジョン、公立保育園では加陽、動橋、スワトン、橋立の4園のリーディング園を中心に実践を進めてきました。

また、市内保育関係者全体でも研修の場を設けるなど、学びを深めてきました。

今回は、広報かが令和7年2月号でご紹介した加賀市・アプローチを創っていくためのプロセスについて、取り組みの様子をご紹介します。

今、保育現場で大切にしている視点や感性を多くの人に触れて、感じていただく機会として、3月1日から9日までの9日間、山代スマートパークで開催し、延べ1,100人を超える人にご来場いただきました。

期間中には「また、今日も来ました」と目を輝かせて、毎日のように来場し楽しめる姿や、「うちの子ってこんな事できるんだ」と子どもの持つ力にあらためて気付かれたと同時に、その子どもの姿から「大人にとっても新しい気づきがあり、発見の連続だった」との声が聞かれるなどさまざまな場面に会うことができました。

展示スペースのお隣には、hanoioyaさんがあり、季節のお花に包まれながら、居心地のよい空間でカフェを楽しむ姿も見られました。

今後市民の皆さまと一緒に子どもたちの学びについて、楽しみながら対話できるような場を作っていきたいと思っています。

「ボーダークロッシングス」展

